

平成 22 年 4 月 16 日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2007～2010
課題番号：19320074
研究課題名（和文） 医歯学系留学生のための e ラーニングによる医療コミュニケーション学習システムの開発
研究課題名（英文） Developing an e-learning system for international medical and dental students to study medical communication.
研究代表者
山下早代子（YAMASHITA SAYOKO）
明海大学・外国語学部・教授
研究者番号：90220334

研究代表者の専門分野：応用言語学、語用論、第二言語習得理論、
科研費の分科・細目：言語学・外国語教育
キーワード：医療コミュニケーション、医療面接、シミュレーション教材、e ラーニング、留学生、医師と患者、問題解決型自己学習、CALL

1. 研究計画の概要

全体構想：本研究は学生と教師双方が医療コミュニケーションを自主学習できるようなシミュレーション教材を開発し、評価し、公開することを目指している。

具体的な目的：

- (1) 医療コミュニケーション教育のための医療現場に関する基礎データの収集と分析、その結果をもとに教材のための内容面の枠組み（シラバス）を構築する。
- (2) 既存のコミュニケーション教育関係リソースの調査と内容分析を行う。
- (3) 医療教育関係者と学習者の e ラーニング教材のレディネス調査およびその分析を行う。
- (4) シミュレーション教材試用版の作成、実施、および内容評価を行う。
- (5) 医療コミュニケーション教育のための自主学習教材本編の作成、評価、改良および公開

2. 研究の進捗状況

(1) 医療現場での医療コミュニケーションを考えるため、患者の側からの声を聞く「患者アンケート」（N=240）を初年度に実施した。これにより、患者がどのようなときに医師に対して好感、あるいは不信感を持つかが明らか

かになった。これを踏まえて教材シラバスを作成した。

(2) リソースの調査では、アメリカ AACH (American Academy on Communication in Healthcare) で開発した e ラーニング教材 Doc.com を検討した。AACH の Novack 教授を招聘し、研究会を開催した。

(3) 本研究対象者である留学生の e ラーニングや CALL のレディネスや知識調査を行い、試作教材を試用してもらい、改善点を探った。

(4) 3 年目までに 8 場面の医療コミュニケーショントピック教材を作成した。

(5) 本編がほぼ完成しつつあり、そのつど教材評価も実施している。最終年度の公開に向けて作業を進めているところである。

3. 現在までの達成度

① 当初の計画以上に進展している。
(理由)

目的(1) H19-20 年度時に 240 人の患者からアンケート調査をし、医療現場での医療コミュニケーションの必要性を調査し、医師になろうとしている医学生（留学生および日本人学生を含む）、研修医、そしてそれを指導する教育者（語学指導者含む）にとっての医療コミュニケーションの必要性を明らかにし、シラバスに反映させることができた。

(2) アメリカ AACH (American Academy on Communication in Healthcare) で開発した e ラーニング教材 Doc.com の翻訳を通して、現在の最先端の医療コミュニケーションを知るとともに、日本独自のコミュニケーションスタイルといったものも検討する必要がある。

あることを明らかにし、作成中の教材に反映させている。

(3) 留学生のeラーニングやCALLのレディネスや知識調査を行い、試作教材の使用の仕方を調査し、これを日本人学生と比較した。

(4) シミュレーション教材試用版の作成、実施、および内容評価が当初の目的であったが、試用版の改良もすでに行われ、完成教材の形になりつつある。これは当初の予定より進んでいる。

(5) 8つの教材がすでに完成した。基礎編（医療面接の開始、初診時の対応・本人確認（医科編、歯科編））と対応の難しい中級編（点滴トラブル、医師の言葉遣い、不平が続く患者への対応、検査が不安な患者への対応、専門外の患者への対応）である。本年（最終年）は上級編が完成見込みである。当初の計画以上に進んでおり、完成時は医療コミュニケーションの初級・中級・上級教材が網羅され、評価を経て公開することができる見通しである。

4. 今後の研究の推進方策

本編の完成と評価を行い、本eラーニング教材を一部公開する。評価に関しては、全国の医療系大学の留学生に協力を依頼中で、年度終了までに結果の集計も完成させる予定である。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

1) Yamashita, S., Jungheim, N., Kinoshita, A., Okawa, A., Nakamura, C., Okita, Y., and Izutani, M. (2009).

The development and evaluation of multimedia medical simulation software for medical communication training. *Proceedings of the third International Wireless Ready Symposium*. 3. Pp. 33-38

[ISSN 1995-4557] (査読有)

〔学会発表〕（計13件）

1) 山下早代子, ニコラス・ユングハイム, 中村千賀子, 須永昌代, 木下淳博 「eラーニングで学ぶ医療コミュニケーション」第4回医療系大学eラーニング全国交流会、東京医科歯科大学（2010年2月19日）

2) 須永昌代, 山口久美子, 窪田哲朗, 大川淳, 木下淳博, 大谷啓一, 荒木孝二, 田中雄二郎 「医歯学シミュレーション教育システムによる教材開発と活用」第4回医療系大学eラーニング全国交流会、東京医科歯科大学（2010年2月19日）

3) Yamashita, S., Kinoshita, A., Okawa,

A., Okita, Y., Nakamura, C., and Jungheim,

N. Teaching Physician-Patient Communication to JSL International Medical Students

by e-Learning Leiden University, The Netherland

（2009年3月11日）オランダ・ライデン大学

4) Jungheim, N., Yamashita, S., Kinoshita,

A., Okawa, A., Okita, Y., and Nakamura,

C. Training in Medical Communication t

hrough e-Learning^{3rd} International

Symposium on Digital Technology in

Language Education. 名古屋商科大学

（2009年2月20日）

5) 山下早代子, 泉谷双蔵, 木下淳博, 大川

淳, 中村千賀子, 大北葉子, ニコラス・ユ

ングハイム 「Eラーニングによる医療コ

ミュニケーション学習システムの開発」日本

語教育学世界大会（ICJLE）韓国・釜山外

国語大学（2008年7月13日）

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕